

事業報告書 (平成30年度)

事業名 ESDによる持続可能な地域教育力育成コア事業

団体名 岡山市京山地区 ESD 推進協議会 担当者名 柏崎 希

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

■春の環境てんけん■

日時：5月12日（土）9：30～16：30

場所：京山地区、

参加対象者：小学生から社会人まで、

人数：100名

内容等：地域をてんけんして、持続性を損なっている地域課題を見つけ、解決に取り組む市民を育てることを目指したESDに取り組んだ。今年度は企画段階から明誠学院高校の生徒に関わってもらい、新しいアイデアを出してもらった。午前中に座主川と観音寺用水と岡山県総合グラウンドで、水辺の生き物と水質調査、大気・騒音調査を実施した。また総合グラウンドでは、野草を使ったアート作り等も行った。絵図町公会堂で昼食休憩後、午後は、京山ソーラーグリーンパークの遊歩道を通って京山山頂へ行き、大気調査、植物調査と食用の野草採取を行った。下山後京山公民館で、採取した野草を天ぷらにして試食し、まとめの話し合い（ふりかえり）を行った。



■夏の源流体験エコツアー■

日時：7月21日(土) 7:30~18:30

場所：真庭郡新庄村

参加対象者：小学生から社会人まで

人数：66名

内容等：流域というつながりの中で、体験を通して原体験やコミュニケーション能力等を育むことを目指したESDに取り組んだ。新庄村では「旭川源流の碑」建立地点で源流域の水環境にふれ、自然観察や環境調査をし、屋外で昼食(そうめん流しやおむすび等)をとった。その後女滝に移動し、水辺体験やリパトレッキングを行った。新庄村の小学生もともに参加し交流を深めた。本会のESDのねらいである源流域の自然体験から環境意識を高める、世代間交流やコミュニケーション能力の向上、感動体験から気づきと探求心を高めるという点も成果を出せた。



■秋の環境てんけん■

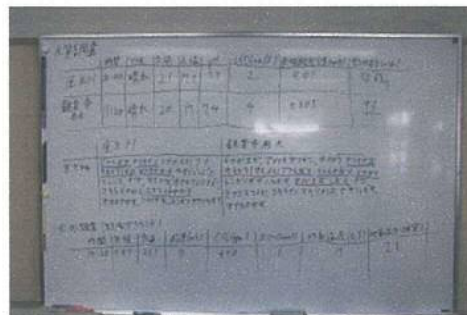
日時：10月28日(日) 9:30~16:30

場所：京山地区

参加対象者：小学生から社会人まで

人数：40名

内容：春の環境てんけんと同様に、地域をてんけんして、持続性を損なっている地域課題を見つけ、解決に取り組む市民を育てることを目指したESDに取り組んだ。午前中に主に観音寺用水で、水辺の生き物と水質調査および大気・騒音調査を実施した。絵図町公会堂で昼食休憩後、岡山県総合グラウンドで大気調査と植物調査、食用にできるドングリの採取を行った。最後に京山公民館でまとめの話し合い(ふりかえり)を行った。



■ESDサミット、ESD・SDGs対話(ESDフェスティバル)■

日時：1月26日(土)～27日(日)

場所：京山公民館

参加対象者：小学生から社会人まで

人数：2日間で延べ約1300名

内容等：テーマを「E：えーものを S：子孫の D：代まで みんなられえー、ぼっけーおもれーESD」とし、地域教育と人材育成に留意し、子どもから高齢者までが一緒になって学び合える場になるように行った。「京山ESD・ESDs対話」、小中高生の発表、国際交流多文化共生プログラム「どんぐり食(韓国と日本)つくって、食べて、みんなで語ろう」、避難訓練と救命講習、劇団公民館☆京山公演「つながるねがい京山編」、マルシェ、「京山みんなのカフェ」、フードドライブ、手作り体験と展示、昔遊びと伝統文化、食器リユース、産業廃棄物のリサイクル材料を使ったこけ玉作り、SDGs カーリングの展示と体験、地域の絆プロジェクトによるワークショップ「豪雨災害 いつ逃げたらよいか、どこへ逃げたらよいかを考えよう」、「ESD学会、ESD交流会、ESD検定、全体会「京山ESD・ESDs宣言2019」など多彩なプログラムで開催した。

小中高生の発表では、それぞれの学びや生徒会活動、委員会活動等について発表し、教育長をはじめノートルダム清心女子大学副学長、環境省環境教育推進室 室長補佐からもコメントをいただいた。



■冬の源流体験エコツアー■

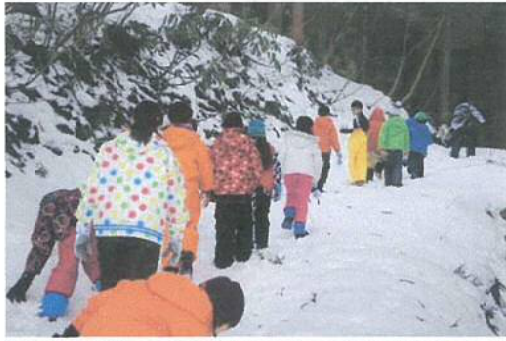
日時：2月16日(土) 7:45～18:00

場所：真庭郡新庄村

参加対象者：小学生から社会人まで

人数：60名

内容：夏の源流体験エコツアーと同様に、流域というつながりの中で、体験を通して、原体験やコミュニケーション能力等を育むことを目指したESDに取り組んだ。新庄村では、雪の中のトレッキング、チームに分かれての「冬の運動会」などみんなで協力して力を合わせる大切さと楽しさを実感するプログラムを多く行った。このツアーでは、地元の小学生や大人も参加し、県北の文化や自然などの「本物体験」とともに、ESDらしく「関わり」や「つながり」を重視し、「共に生きる力」を高める活動に力を入れた。



2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

ESDの視点としては、大きくは継続的に学社連携・全世代合同で地域の環境てんけんを行うことで、持続性を損なっている地域課題や変化に気づき、持続可能性向上や保全に主体的に取り組む市民を育てるということと、広い視野に立ち、流域というつながりの中で、地区外の源流域で日常にはない自然体験や生活体験ならびに上下流交流を通して、つながりを意識し、原体験やコミュニケーション能力（「生きる力」）などを育むという点を重視して行った。多世代間の学び合いの場を増やすとともに、特に中学生、高校生、大学生といった次代を担う若者達が主体的に参画する場を強化し、地域教育と人材育成のさらなる充実に努めた。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

参加者の多くが、この活動を通して、地域の中のいろいろな世代の人と学び合う中で、地域の問題を自分ごとととらえ、自分だけでなく地域のみならず共に一緒に取り組んでいこうという意識を高めていたように感じる。一連のESD活動を通して、「(社会に) 参画する力」「(社会の中で) 共に生きる力」「(さまざまな世代や主体を) つなぐ力」を育み、地域教育力の向上と地域の絆の強化を目指してきたが、エコツアーなどは親子での参加者が増えており、より世代をこえたつながり、中間世代への広がりが見られたことは大きな成果といえる。在住外国人など多様な人々の参画もすすみ、特に地元の高等学校とのつながりがさらに広がり深まりを見せていることも大きな成果である。ESDフェスティバルでは、地域の絆プロジェクトに、想定を大きく上回る地域の人々が参集するなど、多世代にわたって京山地区が抱える課題の解決と未来の創出に向けて語り合う場があることの意義を多くの人と共有でき、持続可能な地域づくりに向けての実行可能な具体的な提案が出せ、さらにそれを実行するという、学びから行動へのつながりがより強くなってきたことも大きな成果である。

4. 今後の課題と展望

14年間のESD活動の継続・蓄積などにより、ESD活動への参加者も増え、地域への浸透も進んできているが、現実的にはまだ地域社会を変革させるだけの広がりまでは至っていない。京山地区でもSDGsを意識する流れは強まってきているので、SDGsの達成に向けてESDをより強化、充実させていくようにしたい。学校教育と社会教育、フォーマル教育とノンフォーマル教育とのすり合わせもよりうまく進むようにしていきたい。より切実な地域課題の掘り起こしや、ESDツーリズムなどの具体的な実践も行っていきたい。京山地区から生まれた「(E) えーものを (S) 子孫の (D) 代まで」のスローガンを広げ、京山地域の未来やビジョンを語り合い、地域の良いところを継続発展させ、地域課題の解決を進め、より住み良い、誰もがずっと安心して幸せに暮らしていける地域づくりとそのための人づくりをさらに進めていきたい。若い人達が引き継ぎ、持続していける地域にしていきたい。